

ジュリエット・ビノシュ
『イングリッシュ・ベイスメント』

ダニエル・オートウイユ
『橋の上の娘』

エミール・クストリツァ
『アンダーグラウンド』

愛
ゆ
え
に

夫は彼を処刑しなければならなかった。
妻は彼を助けたいと思った。
彼の生命は船が着いた時に終わりを告げる。
それは愛を超えた美しい愛の物語。

パトリス・ルコント監督最新作

サン・ピエールの生命^{いのち}

La Veuve de SAINT-PIERRE

フランス映画祭横浜クロージング作品

脚本：クロード・ファラルド 撮影：エドゥアルド・セラ 音楽：パスカル・エスティエーグ 1999年/フランス/カラー/112分/シネマスコープ 小説版「サン・ピエールの生命」(角川書店 ㊦) 後援：フランス大使館 配給：シネカノン+アミューズ www.cqn.co.jp www.amuse-soft.com



深い感動を刻み込む人間ドラマ

1849年、サン・ピエール島。この島に駐留する軍隊長ジャンとその美しく純真な妻ポリヌスは、深い愛で結ばれ互いに尊敬し慈しみ合っている。そして島に流れ着いた荒くれ者の漁師ニールは、酒に酔った勢いで殺人を犯し死刑を宣告されるが、島にはギロチンがなく執行人もいなかった。彼は島にギロチンが運ばれる長い間、ポリヌスの身の回りを手伝うことになる。ポリヌスは粗野で無教養だが純朴で優しいニールの心を理解し、やがて母性愛ともとれるような深い思いを抱くようになる。そんな妻のすべてを許し受け容れ見守るジャン。ニールは次第に島の人々とも親交を深め、一人の人間として成長してゆく。やがてギロチンを載せた船が沖にその勇壮たる姿を現し、ポリヌスは遂にある決心をする。

新しい愛の形

前作『橋の上の娘』では“触れない愛”を描いたルコント監督が、再び新しい愛の形を提示する。ポリヌスのニールに対する“母性の愛”、ジャンのポリヌスに対する“許しの愛”。言葉が口にされることも、感情が露にされることもない。そして、どんな言葉よりも多くを語る沈黙。淡々とした描写で「生命の尊厳」「死刑制度」「人は変わるのか？」と問いかけながら、次第に深い愛がじわじわと心に染み透って来る。運命に翻弄される三人の男女が織りなす“愛を超えた愛”の物語が、清冽な大自然の風景の中、壮大なスケールで描かれる。刻々と迫り来る“死”を載せた船。交錯する様々な“思い”。果たして運命の向こう側には、一体何が待ち受けているのだろうか？ 衝撃のラストシーンが、観る人全ての胸に深い感動を刻み込む。

豪華キャストの夢の競演!

二人の男をそれぞれ全く違った感情で愛するポリヌスに、ルコント作品初出演のジュリエット・ピノシュ。その完璧な美しさとすでに貫禄さえ感じさせる演技で、微妙な心の髪を見事に演じ切っている。自分の正義感に忠実に行動しながら、愛する妻の気持ちをすべて受け容れ何事からも守り通すジャンに、ピノシュとは初共演のダニエル・オートゥイユ。その感情を抑えすべてを許す究極の愛は、女性にとって理想の男性像かもしれない。そして粗野な男臭さと純朴な優しさを合わせ持つニールに、エミール・クストリツァが扮し、初出演とは思えない堂々とした演技力とその圧倒的な存在感が話題になっている。個性豊かな三人の競演は、実際の出来事を基にしたこの作品に、現代につながるより見事なリアリティを与えている。



運命に翻弄される三人の男女が織りなす、愛を超えた美しい愛の物語



パトリス・ルコント監督最新作
「髪結いの亭主」「橋の上の娘」

サン・ピエールの生命

ジュリエット・ピノシュ

ダニエル・オートゥイユ

エミール・クストリツァ

脚本：クロード・ファラルド 撮影：エドゥアルド・セラ 音楽：バスカル・エスティーヴ 1999年/フランス/カラー/112分/シネマスコープ/ドルビーSRD
小説版「サン・ピエールの生命」(角川書店) 後援：フランス大使館 配給：シネカンパニー・アミューズ www.cqn.co.jp www.amuse-soft.com

La Veuve de SAINT-PIERRE

11月18日(土)より愛のロードショー! (上映終了日は劇場に)
お問合せ下さい

前売特別鑑賞券 1,500円(当日一般 1,800円)の処 好評発売中!

※劇場窓口、チケットぴあ、ローソンチケット、各主要プレイガイドにて販売中
劇場窓口のみルコント監督によるイラスト・ポストカード付(限定数)

梅田スカイビルタワーイースト4F 06(6440)5977

梅田 ガーデンシネマ

連 日(入替制) 11:25 1:50 4:15 6:40



http://www.cineplex.co.jp